

第 2 2 回 釧路湿原自然再生協議会

資 料

平成 2 8 年 2 月 2 9 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

第22回 釧路湿原自然再生協議会

日時：平成28年2月29日（月）13：30～16：30

場所：釧路市観光国際交流センター 1F大ホール

議事次第

1. 開 会

2. 第7期（後期） 釧路湿原自然再生協議会の運営について

- 1) 第7期（後期）協議会構成員の公募結果報告

3. 議 事

- 1) 第7期（前期）協議会の収支報告
- 2) 第21回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告
- 3) 釧路湿原自然再生基金の活用方法について（案）

4. その他

- 1) 釧路湿原自然再生全体構想見直しの冊子版 完成について
- 2) 平成26年度土木学会環境賞受賞－釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元－の報告

5. 閉 会

第 22 回 釧路湿原自然再生協議会

資 料 目 次

	頁
1. 第 7 期（後期）釧路湿原自然再生協議会構成員の公募結果報告	1
1-1 第 7 期（後期）協議会構成員の公募結果	1
1-2 第 7 期（後期）協議会構成員名簿	3
2. 第 7 期（前期）協議会の収支報告	8
3. 第 21 回協議会以降の小委員会開催報告	9
4. 釧路湿原自然再生基金の活用方法について（案）	11
5. その他	12
5-1 釧路湿原自然再生全体構想見直しの冊子版 完成について	12
5-2 平成 26 年度土木学会環境賞受賞－釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元－の報告	13

1. 第7期（後期）釧路湿原自然再生協議会構成員の公募結果報告

1-1 第7期（後期）協議会構成員の公募結果

釧路湿原自然再生協議会設置要綱第5条に基づく委員の募集を平成27年12月7日から12月25日まで行った。その結果、新規で個人10名、団体で7団体の応募があった。

これにより第7期後期構成員（平成27年11月から平成28年11月）は、表-1に示すとおり総勢132名となった。

表-1 釧路湿原自然再生協議会構成員数の推移

		期間	個人	団体	オブザーバー	関係行政機関	計
第1期		(H15.11～ H16.11)	45名	32団体	16団体	11機関	104名
第2期	前期	(H16.11～ H17.11)	56名	36団体	14団体	11機関	117名
	後期	(H17.11～ H18.11)	58名	35団体	14団体	11機関	118名
第3期	前期	(H18.11～ H19.11)	59名	40団体	13団体	11機関	123名
	後期	(H19.11～ H20.11)	62名	41団体	13団体	11機関	127名
第4期	前期	(H20.11～ H21.11)	57名	40団体	13団体	11機関	121名
	後期	(H21.11～ H22.11)	59名	41団体	13団体	11機関	124名
第5期	前期	(H22.11～ H23.11)	53名	41団体	13団体	11機関	118名
	後期	(H23.11～ H24.11)	54名	41団体	13団体	11機関	119名
第6期	前期	(H24.11～ H25.11)	48名	37団体	13団体	10機関	108名
	後期	(H25.11～ H26.11)	52名	37団体	13団体	10機関	112名
第7期	前期	(H26.11～ H27.11)	52名	40団体	13団体	10機関	115名
	後期	(H27.11～ H28.11)	62名	47団体	13団体	10機関	132名

表-2 第7期（後期） 協議会構成員新規応募者名簿

■個人（10名）

（敬称略）

氏名	所属	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
吉野 邦彦	筑波大学システム情報系 教授	○					○	
太田 充	筑波大学システム情報系 准教授						○	
伊藤 毅	上智大学 准教授	○	○	○	○	○	○	○
木塚 俊和	道総研 環境科学研究センター 情報・水環境グループ					○	○	
佐野 修久	釧路公立大学 地域経済研究センター長						○	
平岡 俊一	北海道教育大学 教育学部釧路校						○	○
甲斐田 直子	筑波大学システム情報系						○	○
平岩 誠	カヌーショップヒライワ						○	
平間 清	(有)平間ファーム	○	○	○			○	
渡辺 剛弘	上智大学	○	○	○	○	○	○	○

■団体（7名）

（敬称略）

団体・機関名	代表者名	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
釧路湿原・阿寒・摩周シー ニックバイウエイ	会長 桐木 茂雄						○	
一般社団法人釧路観光 コンベンション協会	会長 中山勝範						○	
釧路川流域町村観光 推進協議会	会長 橋口春樹						○	
一般社団法人釧路 青年会議所	理事長 大野良太						○	
特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会	理事長 和田正宏						○	
株式会社 マーシュ&リバー	代表取締役 斉藤松雄						○	
北海道観光調査会	代表 蝦名弘幸						○	

1-2 第7期(後期)協議会構成員名簿

第7期(後期)の釧路湿原自然再生協議会構成員名簿を次に示す。

■個人(62名)

□ : 第7期(後期)新規応募委員

氏名	所属	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
石岡 透		○	○	○	○	○	○	○
伊藤 毅	上智大学 准教授	○	○	○	○	○	○	○
井上 京	北海道大学大学院 農学研究院 教授			○		○	○	
石川 孝織	釧路市立博物館					○		
植村 滋	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター	○						
梅田 安治	農村空間研究所 所長、北海道大学名誉教授			○		○		
太田 充	筑波大学 システム情報系 准教授						○	
岡田 操				○		○	○	
甲斐田 直子	筑波大学 システム情報系						○	○
加藤 ゆき恵	釧路市立博物館	○			○			
金子 正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授	○			○			○
亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員	○	○				○	
河内 邦夫	室蘭工業大学 環境科学・防災研究センター					○		
神田 房行	北方環境研究所 所長(元北海道教育大学 副学長)	○	○		○		○	
神戸 忠勝								○
木塚 俊和	道総研 環境科学研究センター 情報・水環境グループ					○	○	
君塚 孝一	(有)自然文化創舎 オホーツク知床リサーチワーク ショップ							○
木村 勲		○					○	○
河野 通船					○			
小松 繁樹								○
櫻井 一隆		○	○			○	○	
貞國 利夫	釧路市立博物館							○
佐野 修久	釧路公立大学地域経済研究センター長						○	
清水 信彦		○			○		○	○
清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授		○	○				
白谷 和明	平和システム研究所 調査研究員							○
新庄 興		○	○	○		○	○	
新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長 (環境ファシリテーター)	○	○					○
杉澤 拓男		○	○	○	○	○	○	○
杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)	○	○			○	○	

□ : 第7期(後期)新規応募委員

氏名	所属	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
高嶋 八千代					○			○
高清水 康博	新潟大学 人文社会・教育科学系 准教授					○		
高橋 昭								○
高橋 忠一					○		○	○
竹中 康進		○	○	○	○	○	○	○
橋 利器	トラウトフォーラム 会員							○
橋 治国	水圏環境科学研究所 理事長					○		○
鶴間 秀典							○	○
藤間 聡	室蘭工業大学 名誉教授					○		
長澤 徹明	北海道大学 名誉教授			○				
中津川 誠	室蘭工業大学大学院 工学研究科くらし環境系領域 教授					○		
中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師	○						
中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授	○	○	○	○	○	○	○
中山 恵介	神戸大学 教授					○		
野本 和宏	釧路市立博物館	○	○				○	
早川 博	北見工業大学 社会環境工学科 教授		○	○				
針生 勤	一般財団法人釧路市民文化振興財団 生涯学習推進アドバイザー		○					
日野 貴			○	○				
平岩 誠	カヌーショップヒライワ						○	
平岡 俊一	北海道教育大学教育学部釧路校 准教授						○	○
平間 清	(有)平間ファーム	○	○	○			○	
蛭田 真一	北海道教育大学釧路校 教授							○
松本 文雄		○	○		○			○
三上 英敏	道総研 環境科学研究センター 情報・水環境グループ	○				○		
矢吹 哲夫	酪農学園大学 農食環境学群・環境共生学類 教授		○					○
矢部 和夫	札幌市立大学 教授	○						
山田 浩之	北海道大学大学院 農学研究院 講師	○					○	
山田 雅仁	(国際気象海洋(株) 銚子事業所)					○		
吉野 邦彦	筑波大学 システム情報系 教授	○					○	
吉村 暢彦	北海道大学 環境科学院							○
若菜 勇	阿寒湖畔エコミュージアムセンター マリモ研究室	○				○		
渡辺 剛弘	上智大学	○	○	○	○	○	○	○

■団体（47団体）

□：第7期（後期）新規応募委員

団体/機関名	代表者名	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
阿寒国際ツルセンター(グルス)	主任解説員 川瀬 幸							○
一般社団法人 釧路観光コンベンション協会	会長 中山勝範						○	
一般社団法人釧路青年会議所	理事長 大野良太						○	
王子ホールディングス株式会社	代表取締役社長 進藤 清貴				○		○	
株式会社 北都	代表取締役 山崎 正明				○		○	
株式会社マーシュ&リバー	代表取締役 斉藤松雄						○	
釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史	○	○	○		○	○	
釧路川水質保全協議会	会長 川上 三郎 (釧路市公営企業管理者)					○	○	
釧路川流域町村観光推進協議会	会長 橋口春樹						○	
釧路観光連盟	会長 佐藤 悦夫						○	○
釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也	○	○	○	○	○		○
釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃		○					
釧路自然保護協会	会長 神田 房行	○	○	○	○	○	○	○
釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ	会長 桐木 茂雄						○	
釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山岸 彬	○	○					○
釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也	○	○	○	○	○		○
釧路湿原塾	運営委員長 栗林 延次					○		
釧路シャケの会	会長 小杉 和寛		○				○	○
釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司		○					
釧路生物談話会	代表 須摩 靖彦				○			
釧路造園建設業協会	副会長 吉田 英司				○			
釧路武佐の森の会	会長 大西 英一				○			○
国際ソロプチミスト釧路	理事 浪岡 敬子				○			
こどもエコクラブくしろ	近藤 一燈美						○	○
公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文	○	○		○			
公益財団法人 日本鳥類保護連盟釧路支部	支部長 小柳 慶吾							○
公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修	○		○	○			○
公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹	○	○	○	○	○	○	○
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 水循環保全チーム	上席研究員 平井 康幸	○	○	○		○	○	○
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 船木 淳悟		○	○				

□ : 第7期（後期）新規応募委員

団体/機関名	代表者名	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修	○	○	○	○	○	○	○
標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男		○	○	○			
鶴居排水路維持管理組合	組合長 松林 清治	○		○				
塘路ネイチャーセンター	センター長 鷲見 祐将	○	○	○	○	○		○
特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会	理事長 和田正宏						○	
特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香	○			○	○	○	○
特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワークPEG	代表 照井 滋晴	○	○				○	○
特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一	○						
特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長 小林 友幸				○		○	○
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和	○	○	○		○	○	○
特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長 佐藤 吉人		○				○	○
特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道	○	○	○	○	○		○
日本製紙株式会社	代表取締役社長 芳賀 義雄				○			
北海道観光調査会	代表 蝦名 弘幸						○	
北海道標茶高等学校	校長 生田 仁志	○				○	○	○
北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤	○	○	○		○		○
ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子	○			○			○

■オブザーバー（13 団体）

□ : 第7期（後期）新規応募委員

団体/機関名	代表者名	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
社団法人 十勝釧路管内 さげます増殖事業協会	会長 亀田 元教		○					
釧路東森林組合	代表理事組合長 及川 広樹				○			
標茶町森林組合	代表理事組合長 成田 勝利				○			
弟子屈町森林組合	代表理事組合長 山本 保紀				○			
鶴居村森林組合	代表理事組合長 松井 廣道				○			
標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛	○	○	○		○		
釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆	○	○	○		○		
阿寒農業協同組合	代表理事組合長 野村 宏					○	○	
釧路商工会議所	会頭 山本 壽福						○	○
釧路町商工会	会長 中嶋 嘉昭							○
標茶町商工会	会長 田中 進						○	○
弟子屈町商工会	会長 桐木 茂雄						○	○
鶴居村商工会	会長 大津 泰則	○					○	○

■ 関係行政機関（10 機関）

□ : 第 7 期（後期）新規応募委員

団体/機関名	代表者名	湿原 再生	旧川 復元	土砂 流入	森林 再生	水循 環	地域	再生 普及
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 敷土 勉	○	○	○	○	○	○	○
環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行	○	○	○	○	○	○	○
林野庁 北海道森林管理局	局長 黒川 正美				○		○	○
北海道 釧路総合振興局	局長 田辺 利信			○	○	○	○	○
北海道教育庁 釧路教育局	局長 宇田 賢治							○
釧路市	市長 蝦名 大也	○	○	○	○	○	○	○
釧路町	町長 佐藤 廣高	○			○	○	○	○
標茶町	町長 池田 裕二	○	○	○	○	○	○	○
弟子屈町	町長 徳永 哲雄						○	○
鶴居村	村長 大石 正行	○	○	○	○	○	○	○

釧路湿原自然再生協議会 構成員：132 名

2. 第7期（前期）協議会の収支報告

第7期（前期）協議会の収支報告を表3-1に示す。

表3-1 第7期（前期）協議会収支報告

科 目	金 額
第6期後期からの繰越額	812,289円
第7期前期(平成26年12月～平成27年11月)	
1. 収入の部	
寄付金（釧路短期大学、サクサクッキー）	10,000円
寄付金（ミュージックサロンたじま）	3,670円
寄付金（釧路町カラオケ同好会）	10,000円
預金利息（北洋銀行）	64円
第7期前期収入合計	23,734円
2. 支出の部	
第7期前期支出合計	0円
第7期前期収支(2016年2月現在)	836,023円
第7期後期への繰越額(2016年2月現在)	836,023円

3. 第 21 回協議会以降の小委員会開催報告

第 21 回協議会以降に開催された小委員会の開催概要を表 2-1 に示す。

表 2-1 第 21 回協議会以降に開催された小委員会の開催概要

小委員会名	開催日時	開催場所	議事次第
第 16 回 湿原再生 小委員会	H27. 12. 18(金) 13:30~15:30	釧路地方合同庁 舎 5 階 共用第 1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 幌呂地区湿原再生事業 2) 達古武湖自然再生事業 3 その他 4. 閉 会
第 18 回 旧川復元 小委員会	H28. 2. 9(火) 13:30~15:30	釧路地方合同庁 舎 5 階 共用第 1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 平成 27 年度茅沼地区旧川復元モニタリング 調査結果について 2) ヌマオロ川における調査検討結果について 3. その他 4. 閉 会
第 19 回 土砂流入 小委員会	H27. 3. 19(木) 13:30~15:30	釧路地方合同庁 舎 5 階 共用第 1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 久著呂川における土砂流入対策について 2) 国営総合農地防災事業における土砂 流入対策について 3) 釧路湿原における土砂流入対策について 3 その他 4. 閉 会
第 20 回 土砂流入 小委員会	H27. 11. 11(水) 15:00~15:45	下幌呂コミュニ ティセンター	1. 開 会 2. 議 事 1) 久著呂川における土砂流入対策について 2) 雪裡川における土砂流入対策について 3) 今後の予定 3 その他 4. 閉 会
第 15 回 森林再生 小委員会	H27. 11. 20(金) 13:30~15:30	釧路地方合同庁 舎 5 階 共用第 1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 雷別地区自然再生事業の実施状況について 2) 達古武地域自然再生事業の実施状況 (10 年目の振り返り含む) について 3) 参考: 達古武湖自然再生事業における森林に 対する普及啓発について 4) 参考: 釧路湿原達古武地区におけるエゾシカ 対策について 3. 閉 会
第 13 回 水循環 小委員会	H27. 3. 24(火) 13:30~15:30	釧路地方合同庁 舎 5 階 共用第 1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 久著呂川流域における栄養塩負荷量 の検討結果について 3. 発表 釧路川流域における湿原再生 に向けた栄養塩循環評価手法に 関する研究 北見工業大学准教授 駒井 克昭氏 4. 閉 会

小委員会名	開催日時	開催場所	議事次第
第1回 地域づくり 小委員会	H28.1.27(水) 13:30～15:30	釧路地方合同庁 舎 5階 共用第1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 釧路湿原自然再生協議会について 2) 釧路湿原で行っている自然再生事業について 3) 釧路管内の観光の現状について 4) 地域づくり小委員会の進め方について 5) 意見交換 3. その他 1) 連絡事項等 4. 閉 会
第25回 再生普及 小委員会	H27.7.10(金) 13:30～15:30	釧路地方合同庁 舎 5階 共用第1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 再生普及小委員会の活動報告 2) 行動計画の改定について 3) ワンダリング・プロジェクトの今後について 4) (仮)「再生普及行動計画推進チーム」の設置 について 5) (仮)「湿原学習のための学校支援ワーキング グループ」の設置について 6) その他 3. 閉 会
第26回 再生普及 小委員会	H28.1.15(金) 13:30～15:30	釧路地方合同庁 舎 5階 共用第1 会議室	1. 開 会 2. 議 事 1) 再生普及小委員会の活動報告 2) 自然再生の普及のためのパンフレット作成 について 3) 釧路湿原自然再生協議会基金の活用方法 について 4) その他 3. 閉 会

4. 釧路湿原自然再生基金の活用方法について（案）

～「地域の自然再生活動」への感謝状及び活動支援金の贈呈について～

1. 目的

釧路湿原自然再生全体構想（以下、「全体構想」）に基づく自然再生事業開始から10年が経過したことから、協議会設置要綱第15条(1)に基づき、釧路湿原自然再生に資する地域の取組みを応援する目的で、顕著な功績を挙げた民間活動に感謝状及び活動支援金の贈呈を行う。

2. 実施主体

協議会（会長名）

3. 実施期間

2016年度

4. 対象

釧路湿原自然再生の推進にあたり顕著な功績のあった者で、今後も引き続き取組みの継続が見込まれる民間団体または個人を対象とする。

※ 間接的な普及活動ではなく、全体構想20ページに定義する自然の保全、回復、復元、修復、維持管理、創出に直接取り組む活動（湿原そのものの復元のみならず、外来種の防除や野生生物の生息・生育環境の改善等も含む）を主な対象とする。

5. 選考方法

協議会会長、会長代理、協議会運営事務局の合議により、対象者を最大8件決定する。（自薦または他薦による公募等を行わない。）

6. 贈呈方法

年度末に開催する協議会において、会長から感謝状及び活動支援金（10万円）の贈呈を行う。
※活動支援金の使途については、簡易な報告をお願いし協議会に報告する。

7. 実施事務

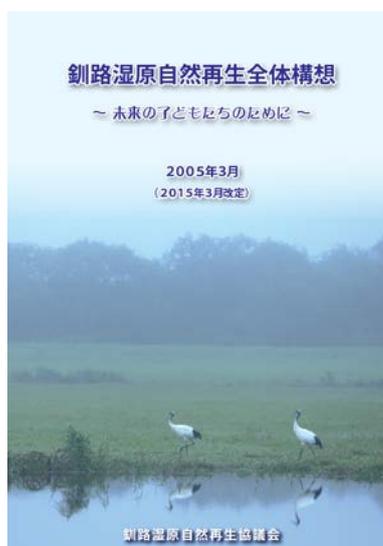
事務（※）は、協議会運営事務局が務める。

※ 選考メンバーへの事前推薦依頼、選考資料（推薦事由等）作成、選考会議招集の連絡調整、選考会議開催、内示連絡、協議会資料及び報道発表資料作成・取材依頼等、感謝状作成、協議会WEBサイトへの掲載、支援金準備及び照会対応等が想定される。

5. その他

5-1 釧路湿原自然再生全体構想見直しの冊子版 完成について

- ・ 前回の第 21 回自然再生協議会（平成 27 年 3 月 16 日）で改定し、冊子版を平成 27 年 9 月に作成し委員へ配付
- ・ 釧路湿原自然再生協議会の HP へ PDF 版を掲載
(http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/)



(全体構想改定 冊子版)

5-2 平成26年度土木学会環境賞受賞－釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元－の報告
平成26年度土木学会環境賞（Ⅱグループ）

（土木技術・システムを開発・運用し、環境の保全・創造に貢献した画期的なプロジェクト）

プロジェクト名	釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元
受賞者名	釧路湿原自然再生協議会
	
所在地	北海道川上郡標茶町コッタロ原野(茅沼)
受賞理由	<p>本プロジェクトは、自然再生推進法に基づき、生物環境の再生等を目的として、釧路湿原内を流れる釧路川の直線化された河川を蛇行した旧川に復元したものである。</p> <p>平成15年に、地域住民、学識者、関係行政機関等の多様な参加による「釧路湿原自然再生協議会」を設立し、実施の是非等の議論を行い、多様な民意の合意形成を図ったうえで、平成18年8月に「茅沼地区旧川復元実施計画」を策定し、同年の冬に旧川復元に着手し、平成23年3月に旧川復元が完了した。なお、協議会では、地域住民の他、河川工学、植物や魚類などの様々な異なる分野の専門家も参加し、研究や議論を行った。</p> <p>このプロジェクトにより、湿原中心部への土砂流入を抑えることができたこと、氾濫原の再生により約30haの湿地が回復し、地下水位上昇や冠水頻度の増加により湿原植生が回復してきていること、蛇行復元前と比較して生息魚類の種類数が約2倍に、個体数が約2.5倍に増加しており、国内最大の淡水魚であるイトウも確認されていること、湿原の河川景観が回復できたこと、旧川復元区間が新たなカヌーコースとなり観光資源として地域振興に貢献していること、などの効果が確認されている。</p> <p>なお、蛇行復元による河川再生は、欧米ではすでに行われているが、アジアでは釧路川が初めての実施事例である。</p> <p>以上のことから、土木学会環境賞の授賞にふさわしいものと判断された。</p>